

◆実践問題24◆

- 1回目
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目

(妻に先立たれた男が)「いかで今一度ありしな
がらの姿を見む」と涙にむせびつつ明かし暮らす

間に、ある時、夜いたう更けて、この女寝所へ来た

りぬ。夢かと思へど、さすがにうつつなり。うれし

さに、まづ涙こぼれて、「さても、命つきて生を隔

てつるにはあらずや。いかにして来たり給へるそ

と問ふ。「しかなり。うつつにてかやうに帰り来た

ることは、ことわりもなく、ためしも聞かず。され

ど、今一度、見まほしく覚えたる志の深きにより

て、ありがたきことをわりなくして来たれるなり」

と語る。その外の心の中、書きつくすべからず。枕

をかはすこと、ありし世につゆかはらず。

曉起きて、出でさまに物を落としたる気色にて、
寝所をここかしこ探り求むれど、何とも思ひ分か

ず。明け果てて後、跡を見るに、元結二つ落ちた

り。取りてこまかに見れば、限りなりし時、髪結ひ

たりし反故の破れにつゆもかはらず。この元結は、

さながら焼きはふりて、きとあるべき故もなし。

いと怪しく覚えて、ありし破り残しの文のありけ

るに継ぎて見るに、いささかも違はずその破れに

てぞありける。